

一般質問から

平成18年第1回定例会の一般質問は、3月14日、16日、17日の3日間にわたり、19人の議員が51項目の質問事項について、市の見解を求めました。ここでは、各議員の主な質問と、それに対する市の見解を紹介いたします。

なお、詳しくは、5月下旬頃、更新予定のホームページの「会議録検索」をご覧ください。

用語 一般質問

一般質問とは、議員が市の仕事全般について、執行機関から現在の状況やこれからの考えを聞くことです。



ホームページのバナー広告について

Q 八潮市のホームページへのアクセス数は、月1万4千から5千件を数えます。ここにバナー広告を掲載して、少しでも八潮市の収入を増やす努力をしてはいかがでしょうか。

森下 純三

A 平成18年度には、八潮市のホームページの充実を図るため、新しく作り直す予定であり、その際、ホームページのトップページにバナー広告を掲載できるようなデザインにすることを考えています。



学校の安全対策について

Q 学校安全の体制の整備を推進するため、防犯の専門家や警察官OB等の協力を得て、各学校を定期的に巡回し、警備のポイントや改善すべき点等について具体的に指導する地域学校安全指導員(スクールガード・リーダー)の配置について、市の考えをお伺いします。

戸川須美子

A 犯罪から子どもを守るためには、学校の安全対策をより強化しなければなりません。PTAや地域の方々による防犯パトロールを組織化し活動しております。また、教育委員会では、地域

防犯パトロールのボランティアを公募し、パトロール活動を実施して頂いております。このように多くの学校安全ボランティアの方々の活動に、警備のポイントを指摘し、指導助言できるスクールガード・リーダーの導入は大変重要なことであると考えます。八潮市教育委員会としましては、平成18年度に、地域学校安全指導員の事業委嘱を埼玉県に申請し、積極的に導入していきたいと考えております。

平成18年度八潮市一般会計予算について

Q 平成18年度当初予算で6つの分野に分けて新規事業を19計画しているが、その各々の事業は何故立ちあげたのか、その内容と理由について又執行にあたって市民生活にどのような効果(サービス)を期待しているのかお伺いします。

柳澤 功一

A 新規事業の一つとして、コンビニ納税があります。これは、法改正により地方税の収納事務を民間に委託することが可能となったことから、納税の多様化に対応するため、納付窓口の拡大を行うものです。平成18年5月より市県民税、固定資産税、都市計画税、軽自動車

税、国民健康保険税について、24時間全国約4万店舗のコンビニで支払いが可能となりますので、納税者の利便性が図られるものと期待されます。また、残りの18事業についても、本市においては三位一体の改革等により厳しい財政状況が続くものと考えられておりますが、このような中においても既存経費の見直しや施策の厳選に努め、新しい時代にふさわしい「やしお」に発展するよう新規の重点事業を編成したところであります。

八潮市における小中一貫教育について

Q 八潮市の教育の課題を踏まえまして小中一貫教育を導入する意義についてお伺いします。

宇田川幸夫

A 八潮市の学校教育における課題は、学力の向上、不登校問題、非行問題行動の解消及び豊かな心の育成であります。これらの課題を解決するために、小中一貫教育の導入に向けたモデル校を設置して参りたいと考えております。小中一貫教育の意義といたしまして、一点目は、義務教育9年間を見通し教育内容を精選、包括し、弾力的で、系統的な教育課程を実施できることにあります。児童生

徒一人一人に確実に基礎基本を身に付ける時間も今まで以上に確保できるようになります。二点目として、中学校の教員による専門的な指導が可能になります。三点目として、9年間を通して一貫した生徒指導や教育相談が実施できるようになります。いわゆる、心理的不安「中学校1年生ギャップ」に歯止めをかけることができるかと考えます。児童生徒にとって魅力ある教育を実施できるよう全力で取り組んでまいります。

小中一貫教育について

Q 約60年に亘り続いている小中6・3制は、現代の生徒たちの体格・精神両面の著しい変化により、教育現場では様々な問題が発生しているようです。

森 伸一

A 小中一貫教育実施のためのモデル校開設には特区申請が必要であり、それによって新たに可能となった教育におけるメリットと課題についてお聞かせください。

メリットは、一点目として教育課程を弾力的に扱い生徒一人一人の実態に合わせた教育ができるようになります。一点目として、9年間を見通

した学習指導、生徒指導、教育相談ができ、中学進学時の心理的不安を取り除くことができます。三点目として、学校行事等における異学年間の幅広い交流により思いやりの心やリーダー性が醸成できます。課題としては、9年間の年齢差から生じる、体力面や精神面の違いをどのように融合し教育活動を実施するかということになります。このような課題を解決するために、モデル校として具体的な研究を実施するものです。